
4. 起業教育に関する実践報告

高校における実践報告

① 「地域を教材に～生徒主体の地域連携事業で育てる力～」



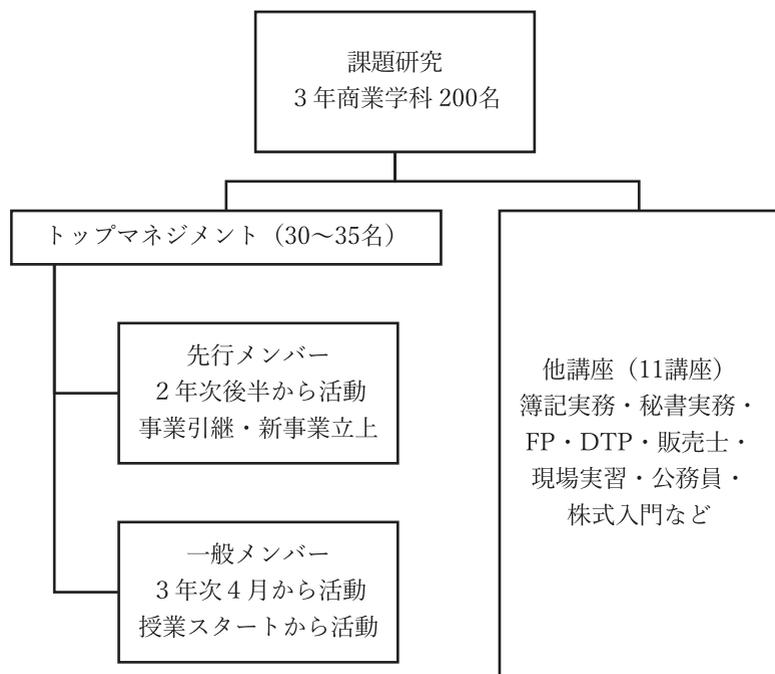
岡山県立岡山南高等学校
教諭 熱田みちる

1. はじめに

本校は、明治35年に「岡山県岡山市立商業学校」という名称の女学校として設立された。のちに家庭学科を併設する共学校「岡山県立岡山南高等学校」として再編され現在に至る。県下最大規模の専門高校として、岡山県の専門教育を常にリードしてきたという自負があり、その歴史と伝統は「南高ブランド」として地域に認識され、現在も活発に地域連携事業を行うことで知られている。他校でも同じような取組は存在するが、地域への波及効果を狙ってか、多くの地元企業が本校を選んで協働事業が計画されることが多く、各事業所にとっては社会貢献を通じたイメージ戦略、生徒にとっても貴重な体験の場となり、ウインウインの関係を構築している。

2. 本校における地域連携事業

本校には、様々な地域連携事業が存在している。「実行部隊」とも呼べるのが、3年選択授業「課題研究」の「トップマネジメント」という講座であり、校内では「トップ」の略称で呼ばれている。毎年30～35名程度の履修者で活動を行っており、授業でありながら活動の特性上、「先行メンバー」として2年生から動く生徒を募っている。先行メンバーは、2年生後半で事業の引継ぎや新事業立ち上げのために活動することで、課題研究でありながら、授業の枠を超えた特別活動として、また、継続した取組として成立することができている。



3. 生徒商業研究発表大会

取り組んだ地域連携事業をまとめ標記大会に出場している。この大会は(公財)全国商業高等学校協会が主催しており、その目的を「商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する」としている。「仮説→企画→実践→検証→課題」という手順で研究を進め、報告書とプレゼンテーションで競うものだ。8月岡山県大会と9月中国大会を経て、11月の全国大会に駒を進めている。6大会において全国上位



入賞を重ね、令和4年度に岡山県初となる全国優勝を成し遂げた。これにより、最優秀賞のほかにも、文部科学大臣賞、産業教育振興中央会賞を受賞した。

- 2012 全国3位
- 2013 全国2位
- 2014 全国2位
- 2015 全国3位
- 2018 全国3位
- 2019 全国2位
- 2022 全国優勝

4. 活動を通じて育つ力

本校に赴任して13年が経過した。この間に「トップ」のメンバーとして400名を超える生徒が活動してきた。その一人ひとりに、具体的にどのような力がつき、どのように将来に生かされたかをはかることは容易ではないし、それぞれ異なるものだ。しかし、高校3年生という多感な時期に、地域社会と手を組み、地域課題の解決を目指して、何らかの「行動」を起こした経験は、そうでない者との大きな格差を生むものだ。自身の行動によって、大人の心を動かし協力という名の行動を起こさせる。その協力なくして実現されなかった成果を手にするによって生徒は「何事も一人ではできない」という実感を得る。そのことが、主体性と協調性、そして、マネジメント力を育むと実感するところである。特徴的な活躍をしているOB・OGを少し紹介してみたい。

(1) M (26歳/男性/H株式会社代表取締役)

卒業時点で就職した地元企業を3年で退職し、環境プロジェクトに取り組むベンチャー企業を立ち上げる。県内の耕作放棄地でスーパーフードを育てる事業を土地の所有者やA型B型事業所との連携で行い、収穫したスーパーフードを粉末状にして、地域のパン屋やレストラン等に卸すことで収益化に成功した。

(2) H (25歳/女性/インフルエンサー/アパレルブランド経営)

15万人近いフォロワーを有するインフルエンサーとして活躍している。季節ごとのコーディネートや美容関連情報を発信し、多くのファンを獲得した。インフルエンサーとして活動しながら、アパレルブランドを立ち上げ、活動拠点を関西圏に移して活躍している。

5. おわりに

教育現場で様々な取組が実践される時代になって久しい。その時々で、そういった教育実践の呼称は変化する。「起業教育」と呼べばそう呼べないこともなさそうだが、本質的に教育における実践活動は「種を蒔く」以上でも以下でもないとは私は考えている。土に触るのを怖がる子どもに、人差し指で土に穴を開けてやる。その細い穴に、小さな欠片を落とすように種を蒔く。その後、水や栄養を与え、芽を吹かせ、大きく育てられるかどうかは、その子次第だ。大きく芽吹いた生徒を誇らしく「起業教育」の賜物と言うには、少し勇気が必要だが、何かのきっかけ程度になってくれていたのかも、と自己満足をくれる存在であることは間違いない。